令和３年度　長寿の里・津島　事業報告

１．令和３年度の重点取り組み内容

⑴施設、設備の更新及び改善

施設の経年劣化に伴う設備の更新をしました。主な内容としては、老朽化した壁面・床面の補修、排煙窓の更新、非常灯・誘導灯の更新、特養を中心としたトイレの更新を実施しました。また、近年のICT化に伴う研修の多様性に対応する為、オンライン環境を完備した職員の研修室を整備しました。環境が改善したことで、ご利用者満足度が高まり、職員のモチベーションが向上しました。

早期に対応したことで、例年の夏季・冬季に突発的に発生する機器の故障等によるトラブルや苦情はありませんでした。

⑵働きやすい職場環境の構築

運営会議、部署長会議を通して、それぞれの部門での自立した管理体制と施設全体としての管理体制を両立することで、運営に職員の声を多く取り入れました。

コロナ過での閉鎖的な環境から施設内行事を積極的に実施することで、職員一人ひとりに役割や働きがいを持たせることが出来ました。

また、会議室（面談室）を整備することで、会議の質が向上し、プライバシーに配慮した個別面談を実施することが出来ました。

消耗品や福祉用具の購入や修繕において、必要性を精査し、迅速に対応したことで、職員からの不平不満の声やモチベーションの低下を未然に防ぐことが出来ました。

⑶感染症対策の徹底及び職員意識の強化

感染症ＳＴＥＰシートを作成し、全国的な蔓延状況に応じての感染症対策を標準化しました。現在の感染症対策がどのようになっているかを可視化して、職員の対応方法を統一することで、職員の不安な気持ちを払拭することが出来ました。

外部への感染症対策としては、玄関マットを更新（殺菌マット）し、エントランスに体温測定器、自動おしぼり機を設置しました。ご利用者や来訪者からの評判も高く、施設の感染症対策が徹底されていると喜んで頂けました。

また、委員会活動を中心に、法人内の他施設との情報連携を図り、環境整備を徹底しました。感染対策物品やゾーニングについての研修を行い、職員意識を強化しました。

２．部門別運営報告

⑴特別養護老人ホーム

感染症 STEP シートをもとに対応方法を見直しながら感染予防に努めました。
介護保険制度改正に伴い、管理栄養士を１名増員し、加算の算定と共に、栄養管理体制の充実を図りました。

職員教育としては、オンライン研修等にも参加できる研修環境を整備しました。
本年度は初任者研修を３名の職員が新規取得しました。
今後も継続して初任者・実務者研修の取得や介護福祉士の取得を推進していきます。

⑵ショートステイ

本年度中に生活相談員の交代が２回あり、ご利用者、ご家族、外部事業所へ不信感を与えてしまいました。その都度、業務の見直しや丁寧な説明をすることで、信頼関係の構築に努めました。また、特養とショートステイの生活相談員を兼務することで、円滑な稼働管理を行うことが出来ました。

⑶デイサービス

送迎車両のうち大型車両を廃車し、ワゴンタイプの車両を２台購入しました。
女性介護職員による送迎が可能になり、送迎エリアの拡大や家族の希望に沿った送迎を実施することが出来ました。

また職員が高齢化しており、業務の質の低下が危惧されていましたが、職員の採用や業務の見直しにより改善することが出来ました。
定例会議以外に、介護スキル向上の為の介護研修を実施し、新人職員の教育体制を強化しました。

⑷居宅介護支援事業所

事業所の所在地の変更や人員体制の変更に伴い、職員間での利用者情報の共有やフォロー体制の確立を図りました。新人職員が安心して働けるような環境整備の他、施設内外の研修を通して個人のスキルアップに努めました。

⑸老人給食サービス

安否確認、市役所との情報共有、安全運転の徹底に努めました。

３．今後対処すべき課題

令和３年度は計画的に直接ご利用者に関係する場所から修繕を行ってきましたが、厨房や洗濯室などの設備・機器の更新が先送りになっています。使用耐用年数を大きく超えている設備も多い為、計画的な更新が必要です。

デイサービスにおいては電子カルテも日常化され、業務も簡略化されました。特養においても段階的に業務を見直しながら電子カルテ導入に向けての準備をしていかなければいけません。まずは、新人・現任職員の資質向上の為、オンライン研修等の外部研修を積極的に活用することで、職員教育に力を入れていきます。

感染症対策についても職員の意識を継続させる事が課題です。全国的な感染状況に応じた対応が出来るように研修を継続していきます。

新規事業所の開設に伴い、デイサービスを中心に人員の増員及び組織の再編成が必須となります。計画的に職員採用をすると共に職員の育成が最大の課題です。